

白石勝也 愛媛県松前町長 意見発表

私の町は愛媛県の県庁所在地松山市のとなりに位置し、西は瀬戸内海に面し、東は四国山脈を仰ぎ、20平方キロの平坦地にあります。豊かな田園地帯もあり、交通の利便性が良いことから、人口も3万1千500人を数えます。

松前町と書いてマサキと読みますが、北海道の松前町と字が同じであることから、20年に亘って友好関係を保っております。

今回の合併は、西高東低と言われるように西日本では合併が進みました。私どもの愛媛県は70あった市町村は、今11市9町になりました。合併しなかったのは、私の町ともう一つだけです。

合併は、国の進める財政優遇措置、こういったことが引き金となって、ほとんどの市町村が合併に動きました。合併したところには優遇措置があるわけですから、合併しなかったところは当然その反動があります。私の町も平成12年に22億円余りあった地方交付税は、20年度には14億円にまで減りました。この間、町は税収のわずかな伸びと、財政調整基金の取り崩しで何とかしのいできました。そして私どもは住民と共に血のにじむような行財政改革を実施しました。今、国が進めている事業仕分けの聖域なき見直しは当然のことです。町長や議員などの給料もカットしました。職員も削減しました。役場庁舎内外の掃除は一部を除いて職員でやっています。町長室は私がやっています。その姿を見て、住民は私のところに1年分の雑巾を持ってきてくれます。冷暖房や電気の徹底した節約、庁舎の周辺は夏になりますと朝顔とゴーヤで埋まります。それで暑さを凌いでおります。

一方、住民の皆様にも痛みを分かち合ってもらいました。補助金のカットや手数料、使用料の引き上げ、補助金のカットでは年間わずか10万円しか出していない老人会にも1割のカットをお願いしました。また、75歳以上の高齢者に出しておりました敬老年金、これも全てカットいたしました。もちろん、住民の皆様に対する痛みだけではありません。私どもの住民係では、1時間の時間延長をしてサービスに努めております。

こうした町村の文字通り血と汗のにじむ取り組みに比べ、ここ数年の国の改革への取り組みは、かけ声ばかりである上、次々と発覚する不正経理や無駄の多さにあきれどころか、怒りさえ思います。

町村は今、合併した所も、しなかった所も、この合併を徹底的に検

証するとともに、未来に向けて自立できる地域づくりに日夜取り組んでいることを、声を大にして言いたいと思います。だからこそ、更なる市町村合併を強制的に進めようとする道州制議論には、到底賛成できないのであります。

市町村の運営や合併問題は、経済性や効率性だけで判断できるものではありません。

さて、今回の選挙で、日本の戦後政治の中で、はじめて大きな政権交代がありました。まさに革命的な出来事です。

しかし、鳩山政権は発足して2か月余りであります。評価を下すにはまだ時間が短すぎます。私どもは、新政権が真に国民の目線に立っているのか、正しく地方の現状を認識し理解をしてくれているのか、そういった点をこれからも厳しくチェックをして参りたいと思います。

最後に、数年前にヒットした映画、「踊る大捜査線」というのをご覧になった方もいると思います。この映画は警視庁湾岸警察署に勤める織田裕二が演じる青島刑事と、警視庁キャリア警察官の柳葉敏郎さん演じる室井警視、この二人のやりとりが非常に味のあることのでかなりのヒットを呼びました。私も見ました。

この映画を見て、二人のやりとりを聞いていると、私はなんとなく地方と中央の関係を言っているような感じがしてなりません。この映画「THE MOVIE」は、警視総監が誘拐されるという事件ですけれども、これを所轄の青島刑事が追いかけます。そして犯人の居場所を突き止めて、捜査本部で指揮を執る室井警視に突入して捕まえるという命令を出してくれといます。これに対し室井警視は、上からの圧力によってなかなかその命令が出せません。その時に、青島刑事は「事件は会議室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ」と叫んで犯人のところに突っ込み、逮捕する時に大怪我をする、こんなストーリーです。

私はこの言葉を聞いて、まさに今、地方と国の関係、地方自治は永田町や霞ヶ関にあるのではないんです。町村にあるんです。このように訴えたいと思います。

町村長の皆さん、長い間、地方自治の最前線で仕事をしていることに誇りと自信を持って、これからも一緒に頑張っていこうではありませんか。

平成二十一年十一月十八日

愛媛県松前町長 白石勝也